

## 1 研究テーマ

「社会的な見方や考え方を育てる社会科指導の在り方～学び合いの授業づくりを通して～」

## 2 はじめに

新学習指導要領解説には、「社会的な見方や考え方を成長させることを一層重視する方向で改善を図る。」と改善の基本方針が示されている。ここで言う「社会的な見方や考え方を成長させる」とは、広島大学池野範男教授によると、「これまでもっていたものとは別の見方・考え方、全く異なった見方・考え方、新しい見方・考え方を準備し、子どもたちの認識において見方・考え方を変容させ、社会に対する見方・考え方を大きく拡大、成長させることである。」<sup>①</sup>とある。その過程において必要となるのは、作業的・体験的な活動時間、または、問題解決的な学習である。

本勤務校の児童は、知識獲得の過程（資料の読み取りと活用）や活用する場面に個人差が大きい。社会的な見方や考え方を成長させるためには、児童相互のコミュニケーションの場をより多く仕組む授業づくりが求められる。本研究では、学び合いの授業形態を導入した。学び合いの授業形態は、上越教育大学西川純教授によると、「お互いの学び合いの中から集団の質が高まり、お互いの良さに気づき、尊重することから、学びの質が高まり、学力が向上するばかりでなく、いじめがなくなる等」<sup>②</sup>の効果を持つ授業形態である。

## 3 研究の目的

- (1) 他者と関わりながら学び合う過程で、社会的な見方や考え方の広がり、学習に対する意欲が向上する支援の在り方を明らかにする。
- (2) 他者との関わりが不得手なA児の行動変容に注目し、分析・検証を行うことで、さらなる授業改善のための指針を得る。

## 4 研究の方法

- (1) 実践校・学年 湯梨浜町立泊小学校 5年生 24名
- (2) 検証教科 5年生 社会
- (3) 検証期間と単元 ①実態調査 6月～7月「水産業」「食料自給率」  
②検証授業 10月～12月「工業生産と工業地域」～「わたしたちの生活と情報」
- (4) 授業形態 検証授業→児童自らが関わり学び合う授業を実施

## 5 検証授業の展開例（20時間中9時間目）

### (1) 授業の流れ

学習過程	具体的な指示・活動	ねらい
1. 課題提示	「わたしたちのくらしは、外国との繋がりの中で生活が成り立っている。身の回りの工業製品を使って、そのことをみんなにわかるように説明しよう。」 「教科書P.89と資料集P.69の④から、調査カードに記入する。」	課題の明確化
2. 課題追究活動	工業製品の原料と輸出国を教科書や他者との関わりの中で調べ、カードに記入する。まとめカードにわかったことを記入する。調査カードとまとめカードを伝え合う。	関わり合う学び 自己の学びの可視化
3. 振り返り	振り返りカードに学習で学んだことを記入する。	自己の学びの可視化

### (2) ねらい

#### ①課題の明確化

- 課題提示→具体的で端的な言葉で提示（児童に1時間の授業の流れをイメージ化）
- 切実性のある課題→友達と関わらないと解けない課題（「みんながわかるような説明をしよう」）
- 教材・人の総結集→主体的に課題解決に取り組まざるを得ないような場の設定。

① 小学校社会科における見方・考え方の育成方略

一単元「地図とはどのようなものでしょうか？地図について考えてみよう！」を事例として一池野範男・竹中伸夫・田中伸・二階堂年恵（研究協力者）川上秀和 2004、P.3

② 『学び合い』の手引き書 上越教育大学 西川純 PP.8～9

②関わりを促す手立て

- お互いの考えを深める→教科書や資料を限定し調べる視点を共有
- お互いに関わり学び合う→関わり合う機会や場を設定

③自己の学びの可視化

- イメージマップ→見方や考え方の広がりを見覚的に捉える。
- 振り返りカード→学習の目標と照らし合わせ、自分の活動内容や心の動きを振り返る。

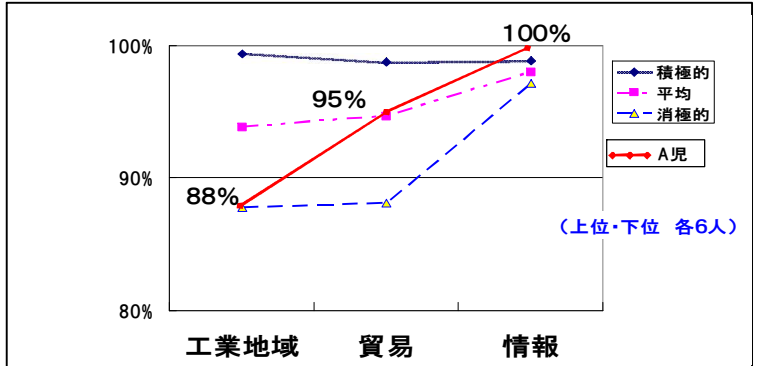
6 研究のまとめ

(1) 成果

①クラスの変容

- 関わり合いに積極的な集団は、学び合うことによさとして、次の項目の満足度が高い。  
「友達と関わり合うとよくわかる」  
「友達に説明すると考えがはっきりする」
- 関わり合いに積極的な集団は、消極的な集団より、知識の定着率が高い。(資料1)

(資料1) 3回のワークテストの定着率



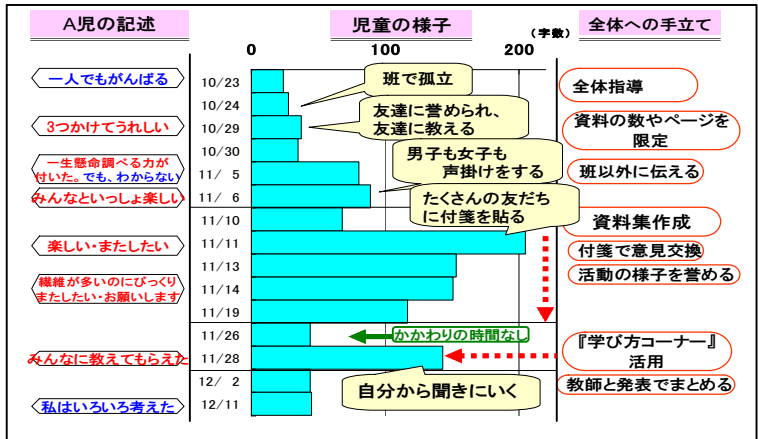
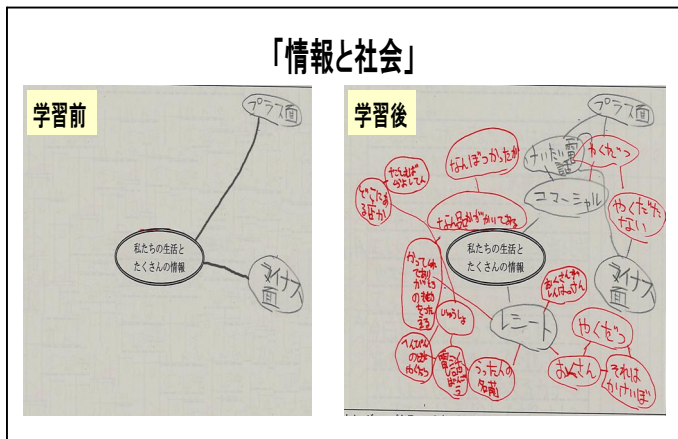
②A児の変容

- 行動から (資料2)
  - ・学習意欲の向上
  - ・教えられることへの抵抗感の減少
  - ・わからない所を、人に訊く機会の増加
- 記述から (資料3・4)
  - ・関連語句の多様化
  - ・活用語句の増加
  - ・関わり合うことへの肯定的評価の増加

(資料2) A児の授業の取り組みの様子

10/24 関わりが持てず、ワークシートも書けない。  
 10/29 発見したことを友達に伝える。友だちに賞賛される。うれしそうに、他の友だちに教える。  
 11/28 自分から男女関係なく積極的に訊く姿が見られる。

(資料3) A児のイメージマップを学習前後で比較 (資料4) 振り返りカードの文字数の変化と内容の変容



(2) 課題と今後の取り組み

- ①多角的・多面的な考えを深める指導の必要性
  - イメージマップを活用した説明活動
  - 教師と児童が系統的な資料活用能力目標の共有
- ②公正に判断する学習場面の設定
  - 学年の能力目標と関連し、根拠を求める学習課題づくり
  - 葛藤が生じるような社会的な課題場面の設定
- ③関わり合いに消極的な児童への対策
  - 学び合うことによさの体験の繰り返し
  - 関わりを促す教師の働きかけの工夫

7 おわりに

本研究を通して、「教師が教える授業」から「子どもが主体的に学び合う授業」へ転換することにより、知識の定着と児童集団の安定化という一定の効果があることが検証できた。克服すべき課題点や改善すべき点も多いが、本研究を一つのステップとして、小学校社会科で目指す児童の姿の実現に向けて、今後も他の教職員と協力しながら実践を行っていきたい。